

2016年に起きた世界の地震 ～南太平洋での地震が目立つ～

◆M7後半の地震が目立った
2016年に世界で発生した地震は、マグニチュード8を超える規模のものは発生しませんでした。日本を含めてマグニチュード7後半の地震によって大きな被害が発生した地域がありました。人的被害が最も大きかったのは4月16日にエクアドルで発生したM7.8の地震です。震源が約20kmほどと浅く、震源付近を中心に非常に大きな揺れに見舞われ、建物の倒壊が相次ぎ600人を超える方が亡くなりました。アメリカ海洋大気庁のまとめによると、津波を伴う地震は13回発生したようです。最も大きな津波を引き起こしたのは、11月21日に福島県沖で発生した地震で、仙台港で最大1.4mの津波を観測しました。検潮所で1m以上の津波を捉えたのは、東日本大震災以来のことです。詳しく見ていくと、13回のうち6回が南太平洋で発生しています。図を見てもわかるように、M7.5を超える地震も南太平洋での発生が多いものでした。特に、太平洋プレートとオーストラリアプレートの境界付近での地震が目立つ印象となっています。

防災新聞

発行者

関西ボラコン株式会社

兵庫県丹波市
山南町草部448-1
電話 06-6467-8333
ホームページ
bousai-ansin.com

f 「いいね！」
お願いします



M7.5以上の海外地震



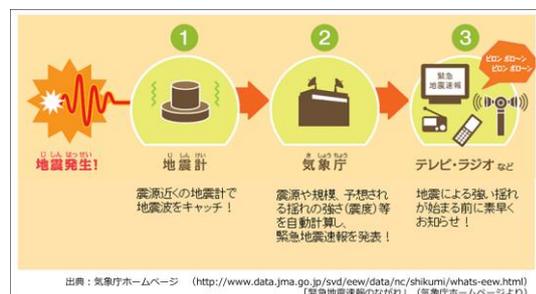
災害時の豆知識～vol.34～

緊急地震速報の仕組み

【何故地震が来るのがわかるの?】

地震が発生すると震源からは揺れが地震波と呼ばれる波となり、地面を伝わっていきます。P波とS波という二種類の地震波の伝わる速度の違いを利用して、速報を出しています。強い揺れによる被害をもたらすのは主に後から伝わってくるS波です。

速報が発表されてから実際に強い揺れが来るまでの時間は、およそ十数秒から数十秒という短い時間。また、震源の近くでは強い揺れが速く来るため、緊急地震速報が間に合わない場合もあります。しかし、スムーズに避難する備えをしておけば、僅かな時間でも身を守るための行動を取ることができます。



防災体験アトラクション ～災害現場から無事に脱出せよ～

防災新聞

発行者

関西ボラコン株式会社

兵庫県丹波市

山南町草部448-1

電話 06-6467-8333

ホームページ

bousai-ansin.com



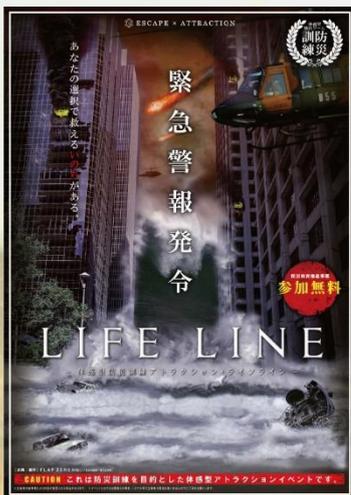
◆防災体験アトラクション
皆さんは、防災の避難訓練というどんな認識があまりですか。火災、地震、津波などの災害が発生したことを想定して避難の訓練を行うため、真面目に取り組まなければならず、あまり積極的に取り組む気にならない、という方もいらっしゃるかと思えます。しかし、そんな防災体験も楽しくなるアトラクションを開発したのが、兵庫県の株式会社フラップゼロです。地震・大雨・噴火・津波など、自然災害が多発しており、一人ひとりが防災の意識を持つことがこれまでに以上に重要となってきた現代で、エンターテインメントとして様々な脱出アトラクションを全国で展開してきた株式会社フラップゼロ。その経験をもとに脱出アトラクションの面白さはそのままに、さらに災害現場や避難所でのシーンでの「防災シミュレーション」として活用できる、日本初のプログラム「LIFE LINE」を完成させました。楽しく学べるこのアトラクションは、第3回国連防災世界会議に出展を果たした後に全国にて展開中の、今注目のアトラクションです。

◆楽しく学んで防災訓練
防災の避難訓練と聞くと小学生のお子さんたちはあまり積極的に参加してくれないのでは、と考えてしまいますが、この体験型防災アトラクションであれば、ゲーム感覚であったり脳トレ感覚であったりと、お子様は勿論お年寄りまで楽しく避難方法を学ぶことができます。この「LIFE LINE」では、隕石衝突という危機的状況が迫りくる中で、協力し合い災害現場から脱出するという新しい脱出ゲームです。なかなか家族、友人と防災の訓練に参加するという機会はないかもしれませんが、このように新しい感覚で体験することができるといえるならば、みんなで楽しく防災について学ぶことができるのでおすすめです。
地震対策は、日頃から行うということが大切ですが、普段から意識するようになるにはきつかけが必要なのかもしれません。このようなゲーム感覚を取り組むことのできることを経験することで、地震対策を意識するきつかけづくりになるのではないのでしょうか。ご興味があれば、気軽に問い合わせしてみてくださいね。

体感型 防災アトラクション® 【LIFE LINE】

第3回 国連防災世界会議に出展を果たし現在、全国にて展開中！

隕石衝突まで残された時間はわずか・・・。
迫り来る時間の中、家族で、仲間同士で協力しあい、
無事に、災害現場から脱出せよ！



体験者の声

- 演出がとても凝っていて、いつの間にか物語りに入ってしまった。笑 (10代女性)
- ゲームでは味わえない緊迫感が、すごかったです。 (20代男性)
- ハラハラドキドキがとても新鮮でした。 (30代女性)
- 子供とこのような形でコミュニケーションがとれるのは、本当に楽しくてよかったです。 (40代男性)
- 普段使わない頭脳を使いました。短い時間にすごい考えましたね。楽しかったです。 (50代男性)

お問合せは株式会社フラップゼロへ

☎ 06-7174-3804

フラップゼロ



阪神・淡路大震災を忘れずに ～兵庫県南部地震の野島断層保管～

防災新聞

発行者

関西ボラコン株式会社

兵庫県丹波市

山南町草部448-1

電話 06-6467-8333

ホームページ

bousai-ansin.com



「いいね！」
お願いします



◆震災の恐ろしさを忘れずに
兵庫県にある北淡震災記念公園では、阪神・淡路大震災によって出現した「野島断層」を保存している野島断層保存館があります。断層による様々な地形の変化をカメラやパネル、案内係の解説によって詳しく観察できることに加えて、断層の断面が見られるトレンチ展示や触れる断層もあるようです。断層保存館には、国道43号が倒壊した様子の再現模型や震災当時の写真パネル、活断層の地図、更には活断層の真横でもほとんど壊れなかった家を「地震に強い家」として公開しました。家の塀や花壇の煉瓦がずれた様子、当時の台所も再現しています。地震が発生した当時の様子を実際に目にすることができ、震災の記憶を忘れることなく後世に引き継いでいくという非常に重要な役割を担っている施設なのです。

◆身近な気持ちが必要？
先ほど紹介した脱出ゲーム「アトラクションの「LIFE LINE」」も、この震災記念公園でも同様ですが、地震を身近に感じることができるようになるきっかけが必要ではないでしょうか。海外に比べて地震の発生が多い日本で、私たちひとりひとりの地震対策の意識が低いことは課題のひとつと言えてしまうでしょう。地震の発生は多いと言っても、実際に経験しなければ他人事になつてしまうのは当然のことです。しかし他人事のままでは、いざ地震が発生した時に何もできないでしょう。地震に怯えながら過ごすのではなく、地震の恐怖と向き合つて、過去に発生した被害を繰り返さないためにはどうすれば良いかを理解、把握することが大切です。そのためには、興味をもつことから始めるといいかもしれません。の興味をもつことが、あなたの家族や周囲の友人などにも影響を与えるきっかけになるかもしれません。

北淡震災記念公園のご案内

平成7年1月17日、午前5時46分マグニチュード7.3、最大震度7を記録する兵庫県南部地震が発生しました。6,434名の犠牲者と甚大な被害をもたらした地震災害は「阪神・淡路大震災」と名付けられました。北淡震災記念公園は地震を起こした「野島断層」を保存し、震災を後世に伝えとともに、今後の防災に役立てるために、平成10年4月2日に開園しました。



断層保存ゾーン

断層の一部の140mをありのままに保存。段差や地割れ等様々な形で現れた地面のずれや断層の断面を見学できます。



メモリアルハウス

断層の真横に立っているがほとんど被害が無かった地震に強い家として保存され、耐震建築の重要性を教えてください。



震災体験館

兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）と東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の2種類の揺れを体験できます。



被災体験を後世に伝える「震災の語りべ」活動も行っており、毎週火曜日にはメモリアルハウスで、団体のお客さまにはセミナーハウスで（要予約・要費用）体験や教訓を語っています。園内の物産館には淡路の特産品を揃えた土産物店と地魚が食べられるレストランがあります。



〒656-1736

兵庫県淡路市小倉177番地

AM 9:00～PM 17:00

非常用持ち出し袋の準備 実際に想定することを考えて

防災新聞

発行者

関西ボラコン株式会社

兵庫県丹波市
山南町草部448-1
電話 06-6467-8333
ホームページ
bousai-ansin.com

f 「いいね！」
お願いします



◆防災グッズの違い

皆さんが準備している非常用持ち出し袋などの防災グッズ、戸建てに住んでいる場合とマンション・アパートに住んでいる場合では、中身を変える必要があります。なぜなら、戸建の場合は津波などで流されてしまわなければ掘り出すことができたとしても、上階まで何階もあるマンションなどの場合は地震で崩れてしまった場合に自分の家の荷物はもう取り出せない可能性が高いからです。

例えば、家に予備のお金をいくらか置いておくとしたらその置き場は避難用の非常持ち出し袋の中と決めておくのと安心です。通帳や印鑑なども同様です。ただし、通帳や印鑑は貴重品だからといって奥の方にしまいこんでしまふといざという時に取り出して逃げるのができなくなってしまうので、置き場所には注意しましょう。さらに、避難の際にマンションの場合はエレベーターが使用せずに住民全員が階段を使うことで混雑することが想定されます。そのため、あまりにも多い荷物は持ち出すことができないという前提も必要です。

◆実際に想定している？

実際に地震が発生しなければ、準備しているものが本場に役立つのかわかりませんが、熊本地震の際にも実際に使ってみてわかったと言うものがあるようです。

まず意外に盲点な「水」についてです。2Lのペットボトルを持ち出し袋に入れていく人も多いのではないのでしょうか。いざ飲もうとしたときに紙コップ等を準備していないと、とても不便利です。2Lを一本よりも、500mlを4本のほうが使いかけ状態の期間も短くなって衛生的にも安心できます。他には、防災ラジオについてですが、手巻き式のものや乾電池式のものがあることはご存知でしょうか？手巻き式であれば電池や電源が必要ありませんが、電池式であればすぐに使用可能です。このようにそれぞれメリットはありますが、いざ使う時までどちらかわからないというところもあるようです。準備していても使う想定をしていない、という方はもう一度見直してみたいかがでしょうか。実際に役立つものとして、「通話アプリ」の存在が大きいようです。地震が発生すると安否確認の連絡

が絶えず、電話回線がパンクしてしまうほどです。無料通話アプリ「LINE」にある「既読機能」は東日本大震災の教訓をもとに開発された機能なのですが、無料で通話可能だけでなく、メッセージを開いたかどうかも確認できるという点で家族の安否確認手段としては有効ですね。熊本地震の際にも非常に役立つようです。

非常用持ち出し袋を準備する際や地震対策について家族や友人との間で話をする際に必要なことは、「実際に地震が発生して使用する」場面をイメージして準備することです。



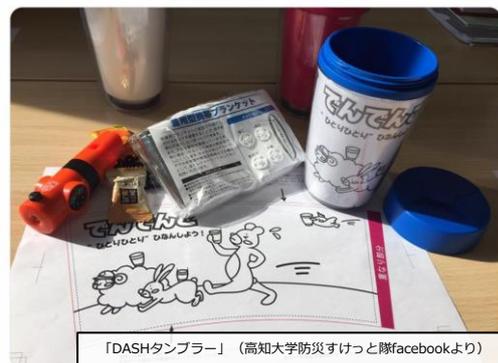
災害時の豆知識～vol.35～

高知大生が開発

【オリジナルタンブラー「DASHタンブラー」】

高知大学で、防災対策に取り組む学生団体「高知大学防災すけっと隊」が、東日本大震災の被災者の意見を取り入れて、これだけ持って逃げるができるようにという「津波てんでんこ」をコンセプトにした「DASHタンブラー」を開発しました。

被災者の意見を反映して、メンバーが選んだ保温シートやペンライト、アメなどの食料やオリジナルの説明書も同封しています。被災した方の経験やアドバイスを取り入れて自分たちなりに活用していくという考えは、震災への備えとして非常に大切に有効なものです。



「DASHタンブラー」（高知大学防災すけっと隊facebookより）

阪神・淡路大震災の教訓

1.17、各地でシェイクアウト訓練

防災新聞

◆シェイクアウト訓練
 阪神・淡路大震災から22年、今年も1・17頃に各地で地震に対する訓練が行われました。神戸市では、第三回目となる「シェイクアウト訓練」が実施されました。
 シェイクアウト訓練とは、2008年にアメリカで始まった新しい形の防災訓練です。事前登録、事前学習、訓練開始、ふりかえり、という4つの段階を踏まえた訓練のことで、参加の意思さえあればどこでもだれでも気軽に参加することができるといわれています。訓練開始時間になったら、その場で「3つの安全行動」（まず低く、頭を守り、動かない）を実施する、いっせいで、シェイクアウト訓練は世界中で広がり、2012年より日本でも各地でシェイクアウト訓練がおこなわれています。神戸市でも2015年より毎年実施しています。今年行われた訓練では、「南海トラフに起因する巨大地震が和歌山県沖で発生し、神戸市では最大震度6強が観測され、兵庫県瀬戸内海沿岸に大津波警報が発令された」という想定での訓練が行われました。

シェイクアウト訓練とは？

シェイクアウト訓練は、「3つの安全行動」を実行する、どこでも、だれでも気軽に参加できる、いっせいで防災訓練。いつか必ず起こるとされている巨大地震にそなえて学校や職場、ご家庭のほか、防災福祉コミュニティ（防コミ）などで避難訓練などとあわせて実施しましょう。

※訓練を行う時は、周囲の安全を確認してから！

なぜ「しせいを低く、頭を守って、動かない」？

地震の揺れそのものでけがをすることは、めったにありません。原因の多くは家屋の倒壊、ガラスの破片などラカ物によるものです。安全な場所へ逃げようと長距離を移動することでケガをする例が最も多く、まずは、避難の際の移動距離を最小限にとどめることが重要です。



しせいを低く



頭を守って



動かない

◆「地震対策はしていない」約7割
 地震への不安は53.2%という結果になり、セコムでは、「4月に発生した熊本地震によって不安を感じた人もいたのでは」と分析しています。また、防災対策については67.2%の人が「していない」と回答し、2015年より1.6%増加しました。不安を抱きながらも防災対策の意識は低いという傾向が浮き彫りになる結果となっています。

発行者
 関西ボラコン株式会社
 兵庫県丹波市
 山南町草部448-1
 電話 06-6467-8333
 ホームページ
 bousai-ansin.com

f 「いいね！」
 お願いします



⚠️ 防災新聞が届いたら構-kamae-に潜る練習を！！ ⚠️



- ①地震警報が鳴る
- ②テーブルに近い人から下に潜る
(先に潜った人は他の人をテーブルに誘導する)
- ③揺れが収まるまでテーブルの下で待機する
- ④揺れが収まれば、避難すべきかの状況判断



- ①地震警報が鳴る
- ②体を回転させ、ベッドから降りる
- ③中央の脚を掴み、体を引き寄せる
- ④揺れが収まるまで待機
- ⑤避難すべきかの状況判断



- ①地震警報が鳴る
- ②襖を開ける
- ③押し入れに入る（前向きか後ろ向きかは各自入りやすい方）
- ④飛来物から身を守る為、自分の体が隠れるまで襖を閉める
 ※完全に閉めてしまうと閉じ込められてしまう恐れあり
- ⑤揺れが収まるまで待機
- ⑥避難すべきかの状況判断